

2024年12月期 第3四半期決算 アナリスト向け説明会 質疑応答録

【全体】

通期計画を期初計画から下方修正しているが、前回の決算発表からの変化点について教えてほしい。

第3四半期単期の実績については、二輪車事業は好調だったものの、マリン事業、RV事業、SPV事業のマイナスをカバーしきれず、当初計画を下回った。上期決算時点からの変化点としては、北米の市場が想定よりもスローなこと。加えて、SPV事業やRV事業が大きく影響を受けた。両事業ともある程度、在庫が積みあがると想定し、対策を行ってきたものの、他社の攻勢含めて苦戦している。RV事業はレポートを使って販売することで在庫を削減していたが、構造の見直しも必要と考えた。

マネジメント体制の変更により、経営体制や中期経営計画の考え方や策定に影響があるのか教えてほしい。

マネジメント体制の変更にもなう影響はない。中期経営計画については、予定通り次期発表に向けて準備を進めている。

【ランドモビリティ事業】

二輪車事業の営業利益は第3四半期単期では前年同期から減益、第2四半期単期から悪化しているが、その要因について教えてほしい。

当社の場合、季節変動や新モデル導入のタイミングなどにより、四半期毎の業績は変動するため、累計での前年比、計画比で管理を行っている。第3四半期累計では、二輪車事業は対前年、対計画とも為替影響を除いても増収・増益であり、今後もブラジル、インド、インドネシアが牽引していく計画。

なお、前年同期は半導体不足解消により供給が回復し、通常よりも売上が増加した。そのため、今年度の利益が、昨年と比べて小さく見えている影響もある。

タイ、中国など全体の市況を含めて減少している国はある。一方、ベトナムなどは過去停滞していたがプラスに転じてきている。総じて二輪車事業全体としては、今までのトレンドから大きな変化は起こっていない。

RV事業とSPV事業の赤字が想定よりも大きかったが、一過性の要因はあるのか。また、構造改革をこのタイミングで着手した理由を教えてほしい。

今期の営業利益予想を2,600億円から2,350億円に下方修正したが、理由の大半が来期に向けた一時的な費用影響である。SPV事業では第3四半期に、構造改革の一環として在庫や部品の評価減などを行った。これら費用は来期に向けた前倒しのコストであり、可能な限り今期中に計上する考え。このタイミングとなったのは、需要が停滞している現在の市場状況を考慮している。市場が活性化する際に、きちんと販売できるよう、今回のタイミングで見直しを行った。

【マリン事業】

船外機の在庫適正化の進捗について教えてほしい。

在庫調整はほぼ計画通り進捗しており、期末までに未実現利益として回収できると考えている。現在、市況は想定よりもスローだが、今後、米国において金利が下がれば、船外機の需要も徐々に回復してくると考えている。その際は、生産、出荷、小売ともに正常な状態でビジネスができる。

船外機において、米国大統領選挙結果の影響を受けられる。関税リスクやその対応策について教えてほしい。

現在、船外機の多くを日本で生産しており、信頼性や耐久性などの品質面で特に評価を頂いている。そのため、関税リスクへの対策として、生産拠点を海外に移すことは考えていない。戦略的に生産、輸出、在庫調整を行うなど、リスク対応力を高めていくことで、変化に対して機動的に対応していく。

以上